

**「豊かな大阪をつくる」シンポジウム」第4回**

**市大・府大の大学統合の  
動きをどう考えるか  
～市大の現状と課題を中心にして～**

**鈴木洋太郎(大阪市立大学商学部)**

# 報告者(鈴木洋太郎)の自己紹介

- 1990年より25年間、大阪市立大学に勤務
- 専門は「国際産業立地論」
- 大学運営にも関与：教務担当部長、商学部長、学長特別補佐など
- 府大との大学統合のワーキング(経済・経営系WG)にも参加

# 公立大学としての大阪市大・府大 ～公立大学の予算的な仕組み～

○国立大学は、文部科学省から直接、補助金(運営費交付金)が支給される。

○一方、公立大学の場合は、総務省から大学を設置した地方自治体に対して地方交付税が支給され、それを使いながら、地方自治体が大学に補助金(運営費交付金)を支給する。支給額は、地方自治体の裁量に大きく左右される。

# これまでの大阪市立大学の予算的な状況

○大阪市は財政悪化に伴って、大学を含む全部局の予算支出を継続的にカットしてきた。

○大阪市立大学の専任教員数も削減されてきた(商学部では、37名から27名へ)。

○大学が法人化したことや府大との統合を考慮して、この5～6年は大学への補助金(運営費交付金)は、ほぼ据え置かれている。

# 府大との統合をどのように考えるか

○すでに10年以上前から大阪市立大学は予算的に危機的な状況であった。

○人件費削減(専任教員の削減、事務職員の短期雇用化)によって大学をどうにか運営。

○工学部と理学部の統合、商学部と経済学部の統合も検討されてきた。

○府大との統合の話は、こうした状況で打診されてきたため、前向きに対応。

# 市大・府大の大学統合の経緯

- ・2013年1月：大阪府市新大学構想会議から「新大学構想＜提言＞」
- ・2013年9月：大阪府・大阪市から「新大学ビジョン」
- ・2013年10月：大阪府・大阪市・大阪府立大学・大阪市立大学「新大学案（平成25年10月版）」
- ・2015年2月：大阪府立大学・大阪市立大学「『新・公立大学』大阪モデル（基本構想）」

# 新大学における学士課程での展開領域

文系	理系
商学 経済学 法学 文学	理学 工学 医学 看護学 獣医学
文理融合	地球未来理工学 生命環境科学
現代システム科学 人間科学	

出所)大阪府立大学・大阪市立大学「『新・公立大学』  
大阪モデル(基本構想)」2015年2月、13頁より作成。

# 府大との統合の問題点

○当初、府大との統合は、スケジュール的にタイトな案であった。

○府大は、理系中心の大学へと大学再編した直後であり、市大との統合が行い難い面も。たとえば、府大経済学部は、現代システム学域・マネジメント学類に再編されたばかりであり、これを急に止めることは困難。



# 「豊かな大阪」のための公立大学とは

○大学の存在は、基本的に地域にとって欠かせない。

○公立大学として、地方自治体や地域の経済団体などとの産学官連携をさらに進める必要がある。

○アジアの国際ビジネス都市である大阪の公立大学としては、アジアの諸大学などとのネットワークづくりも欠かせない。

## 大学改革において重要な点

＝新しさ(大胆な変革)は必要だが、DNA(歴史的伝統)は活かすべき。

○大阪市立大学のDNAは、「大学は都市とともにあり、都市は大学とともにある」、「国立大学の“コピー”であってはならぬ」(旧制大阪商科大学設立時の関一市長の言葉)

○府大と統合し、新大学を設立することになっても、このDNAは引き継ぐ必要があると考える。

# 市大としての大学改革について

○府大との統合とは別に、市大としての大学改革は進めていく予定。

○都市型総合大学(コンパクト・ユニバーシティ)の強みを発揮するために、学部・研究科を越えた連携を強化する(研究院の設置など)。

○全学共通教育(特に英語教育)の強化やグローバル人材育成の強化など